

八代郡竜北町

竜北町は、昭和二十九年の町村合併促進法の施行により、吉野村、野津村、和鹿島村が合併し「竜北村」となり、八代郡の合併モデルケースとしてスタートし、昭和四十九年四月一日、社会経済の進展に伴い、町となる条件を具備したために、合併二十周年を記念として町制を施行した、比較的新しい町です。

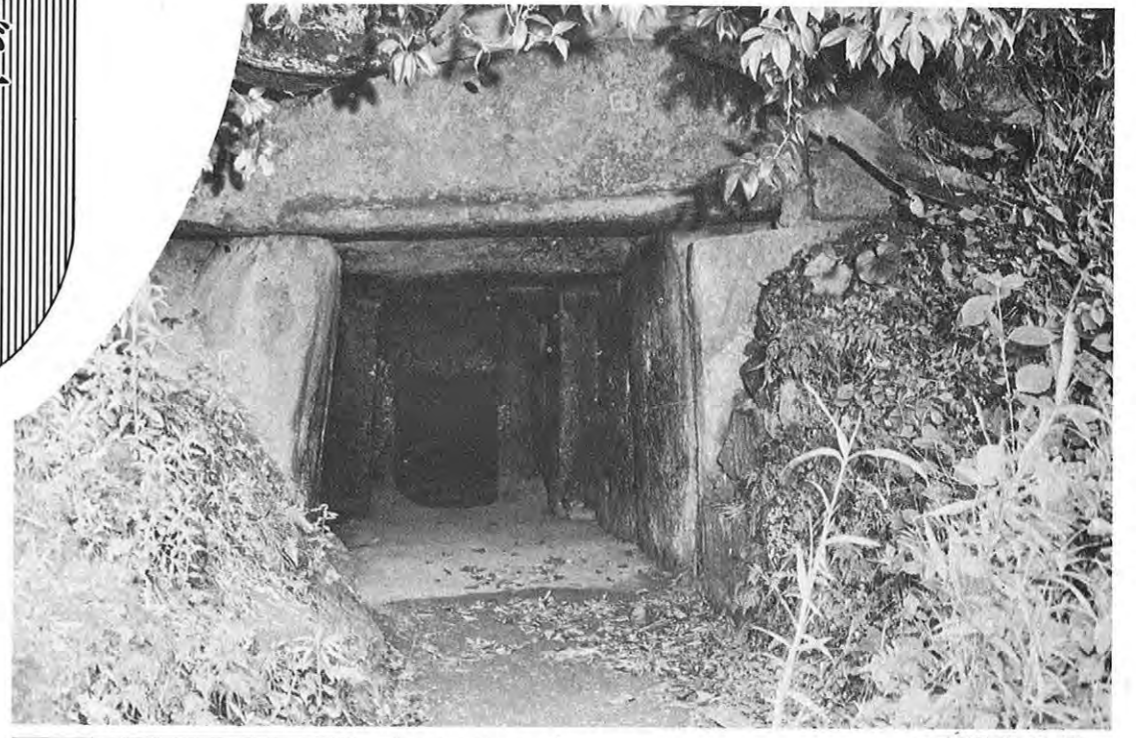
「竜北」という地名は、八代市の東に竜峰山がそびえ立っている。その北方に位置しているという地理的な意味からとったものと、明治中期頃、旧野津村に「竜北館」という塾があり、多くの人材をここから輩出したことからその名に由来があり、旧三村組合立による中学校を設立した際に校名を、「竜北中学校」とした。これがそのまま地（町）名となったものです。

本町は、熊本県のほぼ中央で、日本のい草生産を誇る八代平野の中にあつて、北は砂川を境に下益城郡小川町に隣接し、南は氷川を境に宮原町及び鏡町に隣接し、東は東陽村、西は不知火海に面しています。

又地形は、東陽村に連なる米山（標高二四一m）を最高に概ねならかな丘陵地帯が国道三号線まで続き、これを境に西は、不知火海までまったくの平坦地

わが村

わが町



▲大野窟古墳



▲「熊本方式」を確立した米飯給食



▲人生大学は生涯教育の一つ

◀九州で唯一の大型機械による麦の収穫

で、東西に細長い地形を有している。総面積は、二三・一四平方キロメートル、人口九千二百六十三人（昭和五十五年国調）、世帯数二、一四六世帯で、特に今まで減少しつづけていた人口が、一転して増加（四一人）に転じたことは、大きな特徴といえる。

主幹産業は農業で、東部丘陵地帯は、梨、柑橘類を主に栽培し、平坦地帯では、特産のい草をはじめ米、施設園芸（苺、メロン）及び水田酪農が経営の中心となっています。特に梨は「吉野梨」

四十七年度より、県営圃場整備事業、水川下流かんがい排水事業、及び湛水防除事業に次々に着手し、高生産性農業地帯及び足腰の強い農業の確立に意を注いでいます。

教育関係では、昭和四十五年、全国に先がけて米飯給食に取り組み、週に米飯三日、パン食二日の「熊本方式」を確立し、文部省ではこれを全国に紹介しています。

又、児童生徒の学力向上と教育施設の整備充実をはかるため、昭和四十九・五

在しており、観光農園とを併せたピクニック等に、グループや家族連れがおとずれています。一方平坦地では、広い湖面を持つ潮遊池や小河川に、県外からの釣り人もみられます。

さて最後になりましたが、最近の経済成長の鈍化は国県財政を逼迫し、当然本町にも及んでいます。後年、庁舎、中央公民館、給食センター建設等大事業が控えていますので、徹底した経費節減合理化に努め、健全財政の確立をはかることもに、「豊かな明るい住みよい町」をめざし一層の努力をしていきたい。

豊かで明るい 住みよい町をめざして

の銘柄で全国的に有名で、苺においては「和鹿島いちご」で、栽培面積は県下でも有数です。

昭和四十二年には、四一五ヘクタール（竜北町側）の不知火干拓が造成され、七十三戸の入居が行われました。一戸平均四ヘクタールという大規模な、しかも近代的な農業モデル地帯が誕生しました。

農業が主幹産業であることから、昭和二十八年の第一次構造改善事業、昭和四十年の第二次構造改善事業、更には昭和

十年度において、東部・南部両小学校の統合による竜北東小学校を建設し、昭和五十一・五十二年には、中学校の校舎改築等教育施設の整備を終えた。今後は、教育機器及び内部教育の充実をめざし努力しているところです。

観光面では、これといった施設景勝はありませんが、東部丘陵地帯に、新石器時代すでに人間が居住していたことを示す大野、西平の貝塚や、大和朝廷時代有力な地方豪族がいたことを示す前方後円墳や大野窟古墳等多くの古墳、貝塚が散

